

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	50	学 校 名	静岡県立島田工業高等学校	校 長 名	飯田 龍太郎
------	----	-------	--------------	-------	--------

1 スクール・ミッション

静岡県中部志太榛原地区の工業高校として、校訓「璞磨～誠実・叡智・創造～」のもと、人間力の構築と共に、地域産業界との連携を通して確かな学力を習得することで、地域の発展に寄与し、時代の変化に柔軟に対応できる職業人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
校訓である「璞磨～誠実・叡智・創造～」のもとに、以下の人材育成をめざします。 ① 誠実で礼儀正しく、互いの良さを生かして協働できる人を育てます。 ② 社会の様々な場面で知識や技能を関連付けて活用できる力を育てます。 ③ 気づき、考え、行動し、地域の産業社会の担い手となる人を育てます。 ④ コミュニケーション能力やICT機器の活用力を身に付け、失敗を恐れず問題に挑戦することができる技術者を育てます。	① 人間力を磨くため、HR活動や生徒会活動等の特別活動、部活動、挨拶や清掃、地域との交流活動等に力を入れて取り組みます。 ② 自ら学ぶ姿勢を培うため、「課題研究」をはじめ、多くの科目で探究的な学習を行います。また、複数班に分かれての実習、進路希望に応じた選択科目設置などの個に応じた指導や、生徒同士の協働的な学びを推進します。 ③ 工業人としての基本姿勢を身につけるため、5SやKY（※注）を徹底して実習を行います。また、生徒の社会性をはぐくむため、地域や産業界と連携した教育活動を実施します。 ④ 工業の専門的業務に必要な資格の取得など、学びを深めたいと考える生徒の希望に応える指導を行います。	① 基本的な生活習慣が身に付いており、部活動、生徒会活動、地域における活動に積極的に参加し、よりよい学校生活を送ろうとする意欲のある生徒を求めます。 ② 他の人と協力して新しいことに挑戦する意欲のある生徒を求めます。 ③ 自己の進路実現のために、日々の学習に前向きに取り組む生徒を求めます。 ④ ものづくりやものの仕組みに強い関心を持ち、工業の分野で社会に貢献したいという気持ちがある人を求めます。

※注

5S…整理・整頓・清掃・清潔・躰
KY…危険予知

(2) スクール・ポリシー具現化の柱（○番号は、カリキュラム・ポリシーの項目を表す）

- ア 基本的な生活習慣の確立、規範意識や社会性の育成を通して、人間力の基礎を築く。（①）
- イ 生徒を主体とした教育活動を推進する。（①）
- ウ 授業改善と学習習慣の定着に重点を置き、生徒の基礎学力の定着を図るとともに、知識や技能を活用する力や思考力を育成する。（②）
- エ 計画的なキャリア教育と個に応じた進路指導の両面から、生徒の進路実現を支援する。（②）
- オ 将来の工業技術者として必要な基本的な知識や技術、安全意識を身に付けさせるとともに、資格取得や工業系各種大会への挑戦を促し、目標実現に向け努力する姿勢を培う。（③④）
- カ 積極的な情報発信や、地域や産業界と連携した教育活動を推進し、地域に信頼される学校づくりを推進する。（④）
- キ 生徒が安心・安全に授業や諸活動に取り組める環境を整えられるよう、教職員の資質向上に努める。
- ク 組織的な業務改善を推進し、生徒に向き合う時間の確保、教職員の心身の健康保持に努める。
- ケ 公費の適正かつ効果的な執行に努め、生徒の学習環境を充実させる。

様式第 1 号

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

※成果目標欄の「 」内は学校評価アンケートまたは生徒生活アンケートの質問項目

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	基本的生活習慣の確立、規範意識や社会性の育成を通して、人間力の基礎を築く。	登校指導をはじめとする日常の指導を通して、生活習慣を確立させる。	「挨拶がしっかりできている」「場に応じた着こなしができている」と答える生徒 100%。	生徒指導部 各学年 教務部
			遅刻者の年間平均が 1 日 1 人以内。	
		交通ルールやマナーを守り、自分の身は自分で守る意識を涵養する。	自転車安全指導カードを交付された数が前年度より減少。	生徒指導部
		朝読書を通して豊かな感性を育む。	図書館の利用者数延べ 3,000 人以上。	図書部
イ	生徒を主体とした教育活動を推進する。	生徒会活動、地域活動、部活動等への積極的な参加を勧めるとともに、各活動において生徒が能力や関心に応じて主体的に参加できる場面を増やす。	「学校行事やクラス活動で互いに協力し合っている」と答える生徒 90%以上。	生徒指導部 各学年 工業科
			生徒会が企画した事業の実施。	
			部活動加入率 95%以上。	
			「他の部員と協力して部としての目標達成のために努力している」と答える生徒 80%以上	
ウ	授業改善と学習習慣の定着に重点を置き、生徒の基礎学力の定着を図るとともに、知識や技能を活用する力や思考力を育成する。	1 人 1 台端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、授業改善を推進する。	授業改善をテーマとした校内研修を、年 3 回以上実施。	教務部
			校内外で授業参観をした教員 90%以上。	
			「授業に主体的に取り組んでいる」と答える生徒 90%以上。	
			GWS 等の学習系クラウドサービスやアプリを授業で活用している教員 80%以上。	
		各教科で適切な量の課題を課し、学習習慣を定着させるとともに、学習に主体的に取り組む生徒を育てる。	「家庭学習を毎日 60 分程度行っている」と答える生徒 50%以上。	教務部 教科 学科
			「課題や提出物をしっかり出している」と答える生徒 95%以上。	
		「学びの基礎診断」を実施し、基礎学力向上に活用する。	基礎力診断テストの各科目で学習到達度 D 判定の生徒を前回より減少させる。	教務部 学年 全体

様式第 1 号

エ	全体への計画的なキャリア教育と個に応じた進路指導の両面から、生徒の進路実現を支援する。	進路説明会やLHR等を活用し、志を育む進路指導を推進する。	「進路について自分で情報を集めたり先生や保護者と相談したりしている」と答える生徒 80%以上。	進路指導部 学年
		職業研究やインターンシップを通じて、生徒の職業観を育成する。	「進路目標の早期作成に取り組んでいる」と答える生徒 80%以上。	工業科 進路指導部
		進路検討会を複数回開催し、就職希望者や進学希望者への指導を組織的に行う。	学校紹介民間企業就職内定率 100%	進路指導部 学年 全体
			公務員希望者の合格率 80%以上。 大学・専門学校進学希望者の第一志望校合格率 90%以上。	
オ	将来の工業技術者として必要な基本的な知識や技術、安全意識を身に付けさせる。	将来の技術者に不可欠な、作業の基本的姿勢を身に付けさせる。	安全教育資料に基づく指導と 5S・KYの徹底により、実習中の事故 0 件を達成する。	工業科
		実習や課題研究を通してものづくりの手法を学び、探究型学習を実践する。	課題研究論文集の作成や、発表会開催により、校内での学習成果を共有する。	
		工業の知識や技能を深め、将来に生かすため、資格取得や技能競技大会への参加を促すとともに、目標実現に向け努力する姿勢を培う。	各科で重視する資格・検定等について、目標合格率を定め達成する。 ・工業基礎力テスト平均点 60 点以上 ・第 2 種電気工事士 ・情報技術検定 2 級 ・2 級土木施工管理技士補等の合格率 60%以上	
			ジュニアマイスター顕彰制度において、ゴールド・シルバー合わせて 20 名以上認定を受ける。 県高校生競技大会や公募コンテスト等に団体・個人合わせて参加 25 件以上、上位入賞 5 件以上。	
カ	積極的な情報発信や、保護者・地域・産業界と連携した教育活動を推進し、地域に信頼される学校づくりを推進する。	学校通信、公式ホームページ、公式 SNS を活用した学校広報活動を推進する。	島工通信 年 6 回以上発行。 公式 SNS (X) または HP 記事掲載 月 25 本以上	管理職 教務部 全体
		体験入学や中学校説明会において、中学生に工業高校の魅力をアピールする。	島工生が中学生に説明する場面を増やす。 1 日体験入学における中学生・保護者の満足度、ならびに中学校説明会における中学生・保護者の満足度各 80%以上。	管理職 総務部 全体

様式第 1 号

カ	積極的な情報発信や、保護者・地域・産業界と連携した教育活動を推進し、地域に信頼される学校づくりを推進する。	校外で学習の成果を発揮し、地域との交流を積極的に行い、生徒の姿を多くの方に見ていただく。	小中学校への出前授業や地域の方対象のものづくり教室等の開催 年 7 回以上。	工業科全体
		保護者に情報を発信し、連携を深める。	保護者が参加・参観する行事の開催 年 7 回以上。	総務・生徒進路・学年
		地域の企業・大学等を招いて出前授業を実施し、各科における学びを深める。	地域の企業・大学等による出前授業の開催 年 10 回以上	工業科
		家庭・地域との連携により生徒の防災意識を高める。	生徒の地域防災訓練参加率 70%以上。	総務部
キ	生徒が安心・安全に授業や諸活動に取り組める環境を整えられるよう、教職員の資質向上に努める。	職員の不祥事を根絶する。	不祥事根絶研修を毎月実施する。	管理職
		悩みを抱える生徒や特別な支援を要する生徒を把握し、必要な対応を行う。	「こころと身体のチェックリスト調査」と「学校生活アンケート」を各学期に、「健康観察・心の観察アンケート」を長期休み明けに実施し、回答内容によってはケース会議を実施する。	保健部
		校内で保有している情報を適切に管理し、セキュリティ事故を防ぐ。	情報セキュリティに関する校内研修 年 1 回以上。	教務部
		自然災害や校内での事故などへの初期対応の知識や技術を身に付ける。	危機管理マニュアルの内容の確認。	総務部
			AED による救命や応急手当に関する研修 年 1 回。	保健部
ク	組織的な業務改善を推進し、生徒に向き合う時間の確保、教職員の心身の健康保持に努める。	校務に I C T を活用し、ペーパーレス化を進める。	紙の使用量を前年度比 5 % 削減する。	全体
		職務内容・分担の見直しや C ラーニング等の I C T の活用により業務改善を行い、働きやすく、休暇取得しやすい環境を整える。	教員 1 人あたりの時間外勤務を昨年度より削減する。	
			夏季休暇取得率 100%。	
		外部の専門人材との連携・協働に努め、教員の勤務時間削減を進める。	文化の匠、部活動支援員、相談員等の外部人材を 4 人以上配置する。	管理職
ケ	公費の適正かつ効果的な執行に努め、生徒の学習環境を充実させる。	教育ニーズに応じた予算の執行により、教育用備品・施設・設備の整備を進める。	「安全で快適に生活できる施設・設備が整っている」と答える生徒 85%以上。	事務
		法令を遵守し、正確で迅速な会計事務処理を行う。	監査での文書指摘事項ゼロ。	

(記入上の留意点)

具体的な重点項目が外部の方にもわかりやすいよう、工夫して記載すること。